

平成22年度 文化庁日本語教育大会 資料

パネルディスカッション
「標準的なカリキュラム案の可能性」

山形市国際交流協会
生活講座事業の紹介

生活講座事業の概要

【目的】文化，社会的な差異や日本語がわからないために生じる誤解や失敗，危険の回避及び地域でのトラブル防止

【対象】来日間もないため，日本語や日本の生活習慣に不慣れな外国人

【内容】①生活するための基礎的知識情報の提供
②コミュニケーションをとるのに必要最低限な日本語習得の支援

【形態】

- 学習時間は、全15回(30時間)で修了
内訳:レギュラー講座10回, 実践編2回
復習2回, 発表会(修了式)1回
- 使用テキスト ※特徴1
「生活講座のためのいっしょに歩もう山形」
- 支援方法 ※特徴2
母語別グループに分け, 外国人支援者(FT)と日本人支援者(JT)によるチームティーチング(TT)方式

特徴1 独自テキストの作成



- 山形で暮らす外国人の視点から必要最低限の10課の項目を選定した。

1課 あいさつ

6課 銀行と郵便局

2課 料理

7課 交通手段

3課 買い物

8課 飲食店で

4課 ごみとリサイクル

9課 電話

5課 病気

10課 日本文化

- 目で見てわかるように写真や挿絵を多く入れ込み、山形にあるものを撮影している。
- 教え方のポイントに各国の文化背景を説明している。
- 方言の解説を付録

特徴2 TTの取り組み

- FTは、テキスト内容やJTの説明を学習者に伝え、しっかりと理解させる役割
- JTは、学習者の質問への回答や言葉・会話の日本語発音の手本を示す役割

※日本語のレベルが低い場合はFTが主導し、高くなるほどJTが主導する。



TTの具体例(5課病気)

- ①病院にかかるときの説明＝FTが母語で説明
- ②質疑応答＝FTが聞いて, JTが回答, FTが通訳
- ③病院・身体・診察・治療等に係る単語の説明＝FT
- ④単語の発音練習＝発音の手本はJT → STEP1
- ⑤病院場面の説明＝FTが母語で説明
- ⑥質疑応答
- ⑦受付・診察の会話練習＝JT → STEP2
- ⑧再診・予約場面等の説明＝FTが母語で説明
- ⑨質疑応答
- ⑩再診・予約場面の会話練習＝JT → STEP3

【備考】

- 講座名

「生活知識・日本語会話講座」

- 登録支援者

FT13人（中国7人，韓国5人，英語1人）

JT16人

- アドバイザー

大学の日本語講師にお願いしている。

講座時アドバイス，研修会講師，反省会出席など

- 実行委員会（FT4人，JT7人）

講座の他に，シフト表作成，事前打合せ会，反省会，研修会を実施している。